

## 調査・研修報告書（議員用）

報告者： 松本 みのり

実施場所：全国市町村国際文化研修所（JIAM）	実施日：2022. 4. 27-4. 28
<b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b> * 毎年のように大きな災害が発生している中で、いざ災害発生時に議員としてどう動いたら良いのかを考えておくため。 * 本市では、避難に支援の必要な方への見守りネットワークが充実している一方、あまり想定をしていない地震による被害への対策には弱いところがあると考えられるため、事例から学びたい。	
<b>■参考とすべき事項</b> * 分厚い、日頃誰も見ないマニュアルは、いざという時に全く役に立たない。 * 避難所が被災することも想定しておく。 * 3日間耐えられれば、外からの支援が届き出す。 * 「災害弱者」「外国人」「ペット」への対応など、あらかじめ考えておく。 * 誰がどの福祉避難所に行けば良いかも決めておく。 * 市長発信の公式情報、報道機関にオープンにした災害対策本部会議などを行い、デマに振り回されにくい体制をつくる。 * どこで、誰が、何をしているか、職員配置表をつくってみんなで共有する。 * 支援物資の置き場所、どう整理し、どう運ぶかなど、具体的な受援計画を立てておく。 * いざという時、逃げるスイッチに切り替えられるように、教育と訓練を重ねておく。 * 訓練しないと簡単なことも出来ない。 * ゆっくりやれば出来ることも、急ぐと出来なくなる。 * 被災者の氏名の公表方針を確認する。	
<b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b> * まずは、自らが被災しないことが大事。 * 発災直後の混乱期には、やるべきことより、やってはならないことを意識し、行政に負担を掛けない議会運営を考えること。 * 混乱期は、臨時議会ではなく、議員全員協議会を開いて対応を協議するなどを考えること。 * 情報の一元化を図るための流れを決めておく。 * 発災直後に、議員として動ける部分はほとんどない。 * 災害は起こるものとして、平時に、あらゆるパターンを想定して備えられるかが重要。 * 議員の一番の役割は、行政職員が危機管理能力を高められるように、日頃から、議員自らが学び、質疑、提案を行なっていくこと。 * 避難計画だけでなく、受援計画、体制についても確認しておく。	